

8. 2019年度 教科目標

理学療法士学科（昼間3年制／夜間4年制）

養成目的

リハビリテーション医療は、「命の尊厳」を守り、「ノーマライゼーション精神」のもと、「全人間的復権」を目指して発展してきた。その中心的存在として理学療法士は、「身体に障がいのある者」に対し基本的動作能力の回復や心身の機能の維持向上を図るために理学療法を行ってきた。近年の医療の進展に伴い医療の機能分化が進み、理学療法士に対して多様な障がいあるいは重複した障がいに取組むチーム医療の一員として、適切かつ円滑に業務を行うことを期待されている。急性期では、心臓・呼吸などの臓器の病態理解により高度医療における早期リハビリテーションに対応できることが求められる。回復期では、自宅復帰に向けた日常生活活動機能の改善及び自立指導ができることが求められる。維持期では、廃用症候群の予防・転倒予防・誤嚥性肺炎の予防などを目的に家族指導・栄養指導ができることが求められる。また新しい分野として、介護予防事業・健康増進事業の参入、起業家の育成などがあり、それらに対応できる人材が今後求められるであろう。

本学科では、以上のような業界が求める人材の育成をコンセプトとし、実学教育・人間教育・国際教育の教育理念に基づき、理学療法士としての基本的素養を徹底的に育むことを目的とする。

養成目標

（初年次教育）昼間部1年、夜間部1年・2年

- ・医療専門職としての基本である解剖生理学を疾患別に体系的に習得する。
- ・理学療法士として求められる人間性を育む目的で「コミュニケーション論」を設定し、「面接OSCE（客観的臨床能力試験）」を通してコミュニケーション力を身につける。
- ・「リハビリテーション演習」として、患者接遇と理学療法業務を体験し、理学療法士の役割を理解する。

（評価年次教育）昼間部2年、夜間部3年

- ・急性期・回復期・維持期リハビリテーションに必要な知識をより実践的に習得するために、理学療法業界で著名な講師を招き、講座を設定する。
- ・臨床推論能力（clinical reasoning）を養成するため、PBL方式（問題基盤型学習）の実践として「総合演習」で問題解決能力を身につける。
- ・「医療OSCE」と「総合演習」で培った能力を現場力とすることを目的に、学外実習として段階的に1週間の検査測定実習と4週間の評価実習を実施する。

（臨床年次教育）昼間部3年、夜間部4年

- ・国際教育の一環として、海外提携校であるアメリカのロマリダ大学にて研修を受け、理学療法学部との学生と交流を持ち、国際的かつ専門的な視野を広げる。
- ・国家試験合格を目的に「国試演習」を設定し、グループワークやCBT（e-learning）を導入し、徹底した指導を行う。

取得目標資格

理学療法士（国家資格）（卒業時に受験資格取得）

就職分野

特定機能病院、地域医療支援病院、一般病院、リハビリテーション病院、医療療養型病院、専門病院、整形外科医院（スポーツ専門）、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、訪問看護ステーション、行政機関、身体障がい者更生援護施設、医療関連企業

職 種

理学療法士